

10月16日(月)~20日(金)、研修旅行が実施されました。中学3年生がシンガポールとマレーシアへ、高校2年生は沖縄コース、鹿児島・屋久島コース、そして、カンボジアコースからの選択でそれぞれ行ってきました。コロナ禍の中、海外コースは断念せざるを得ませんでした。数年ぶりの海外研修旅行の実施となりました。

学校の研修旅行(本校では修学旅行と言わず、多様な学びを先行する趣旨から研修旅行と言う)は、いつもは行けないところに行ってみる、なかなか経験できないことを経験してみるというのが目的です。どこを選定するかというのは困難な作業ですが、費用も勘案しながら上記を今年度の行先にしました。

私は、昨年は沖縄へ、今年はカンボジアへ帯同しました。生徒や現地の様子、感想などを記してみました。

## 学びと感動のカンボジア

10月16日(月)の夕方、25名の生徒と私を含め引率教員3名でカンボジアの地に降り立ちました。カンボジアは雨期。雨こそ降っていませんでしたが、日本の梅雨時に似た空気感が漂っていました。空港からホテルへの道中、薄暮に見える田園風景、屋台に集う人々、喧騒とした街並みにカンボジアに来たことを実感しました。

17日(火)は、手作り製品工房で働く農村女性の方々との交流と農家訪問。途上国の女性の姿に触れました。そして、地雷博物館の見学。内戦という悲惨な過去を学びました。

18日(水)、バイヨン中学校・高等学校との学校交流。理事長のチア・ノル先生から内戦下を含む自身の半生とカンボジアの歴史について学びました。その後、生徒間交流を行い、「お菓子交流」「遊び交流」「野球交流」で盛り上がりました。男子の「野球交流」後は、バイヨンの生徒にキックボクシングを教えてもらっていました。

19日(木)、心揺さぶられた一日となりました。朝4時過ぎに起床、ホテルを5時出発。「誰もが一生に一度は見たいと思う絶景、アンコール・ワット遺跡の日の出」を見に行きました。5時40分ごろ夜の帳が白々と明るさに押され始めました。やがてオレンジ色のカーテンが遺跡に掛かり、6時頃、太陽が姿を現しました。それから十数分間、絶景に酔いしれ、心は無と化していました。いつの間にか涙が頬を伝っていました。それからホテルに戻って朝食。その後、アンコール・トム遺跡、午後はアンコール・ワット遺跡の中へ。中央塔の上部に上り、感動のあまり身震いしたのは自分だけだったのでしょか。

20日(金)、帰国の途に。

雨期にもかかわらず天候に恵まれたカンボジア研修旅行でした。生徒の日頃の行いが良かったのでしょう。私見ですが、若い(20歳まで)うちに一度は海外に行き、新たな価値観との出会いを為すことは必要なことだと思います。なぜなら、価値観の揺さぶりが「常識」を見直し、生き方のヒントを得ることに直結するはずだから。

カンボジア、学びと感動の研修旅行となったね。



世界遺産のアンコール・ワットの遠景。壮観でした。



アンコール・ワットの日の出。素晴らしい景観が迫ってきました。「ああ、生きててよかった」と思いました。



アンコール・トム遺跡で、なんと遺跡修復作業にかかわることができました。削ったり、磨いたり。この岩が未来への遺産になるのです。



手作り工房で働く農村女性のみなさんとの記念撮影。みなさん、誇りをもって生き生きとして働かれていました。作り手の想いや背景を知ることの大切さも学びました。